

議会だより



新鮮野菜（土谷地区・中通） 無人直売ロッカー誕生

令和2年度一般会計決算認定……②～③

補正予算・報告事案・請願・陳情の審議……④～⑤

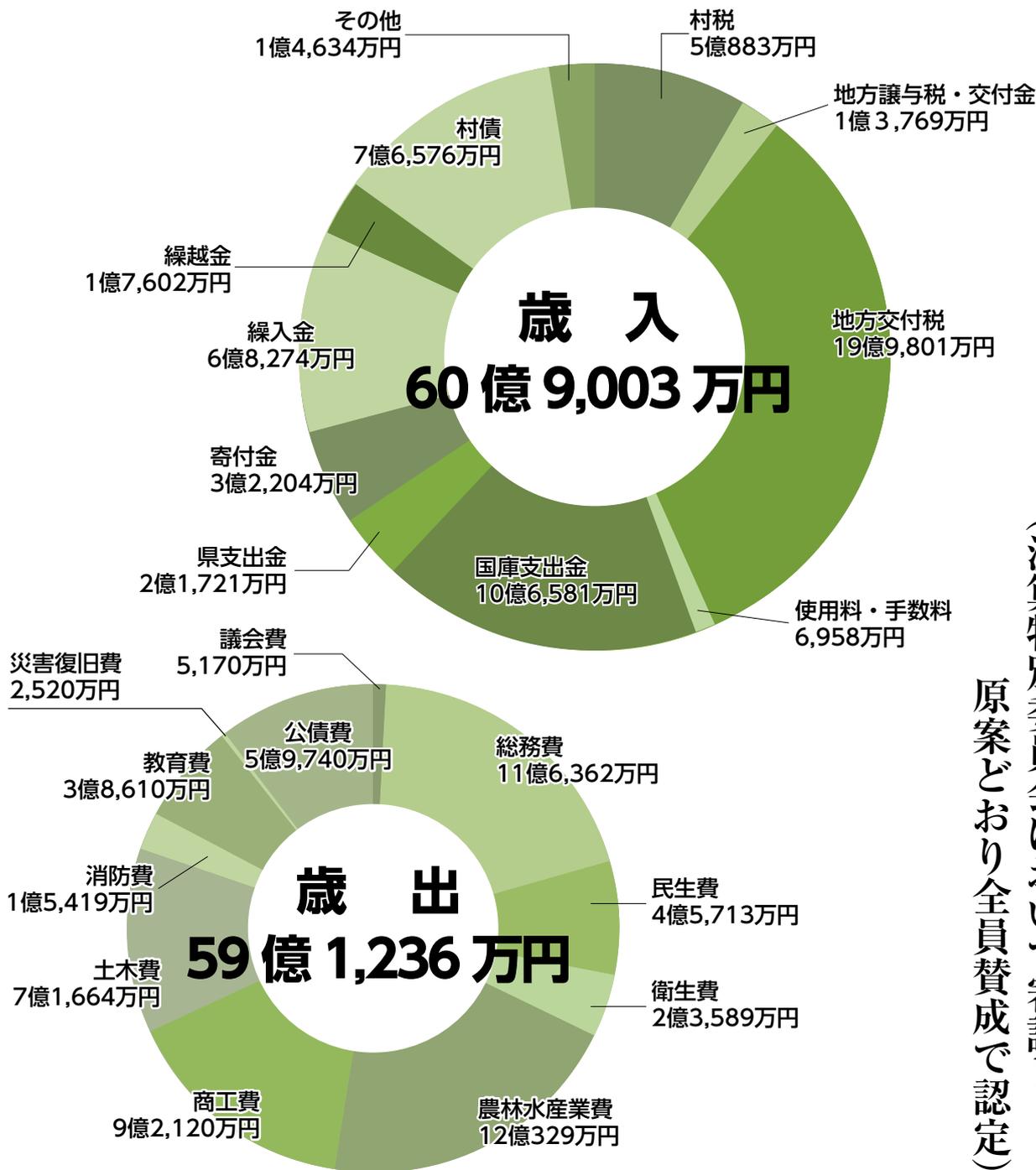
委員会活動報告……⑥

村政を問う・一般質問……⑦～⑮

わたしのひとこと（細澤 哲さん・悴田 和巳さん）……⑯

令和2年度一般会計決算認定

(決算特別委員会において審議し、
原案どおり全員賛成で認定)



2年度決算監査報告抜粋

代表監査委員 松澤 米雄

審査の結果 審査に付された決算書、同事項別明細書等は、関係諸帳簿及び証拠書類と符号しており、誤りのないことを認めた。基金の運用も適正に処理されていると認めた。

予算執行について 複合拠点施設「大字あたしんち」の運営については、毎年村から相当額の運営補助費が必要となる事が想定される。スタートしたばかりの新規事業であるが、今後に向けた総合的な見直しを実施し、村費の負担軽減に向けて検討を急いでいただきたい。

総体 令和2年度は、経済的に貧窮する事業者や村民を守るために様々な支援策を国、県と連携しながら実施してきたが、小谷村の支援内容は他町村に比較してかなり手厚いものであった。こうした緊急予算出動が実施できたこと背景には、財政調整基金等の貯えを進めた先達の慧眼があった事を忘れてはならず、この場を借りて改めて感謝したい。そして、貴重な財源を支出したからにはその用途や交付基準が適当であったか、効果と併せて検証する事を是非ともお願いしたい。

2年度決算の概要

2年度の主な事業は

●CATV放送設備及び光伝送設備更改工事	4,882万円	●ふるさと応援寄付基金事業	3億1,567万円
●空き家等利活用対策事業	2,672万円	(うち基金積立金 1億6,751万円)	
●特別定額給付金給付事業	2億8,157万円	●地域支えあいプレミアム付商品券事業	3,067万円
●広域介護保険事業負担金	6,266万円	●長野県後期高齢者医療療養給付費負担金	4,066万円
●社会福祉協議会補助金	2,178万円	●障害者自立支援事業費	6,261万円
●児童措置一般経費	4,598万円	●清掃一般経費	1億2,255万円
●中山間地域直接支払事業	4,677万円	●営農等倉庫建築工事	7,966万円
●道の駅おたり内装改修工事(繰越分)	6,106万円	●集落支援事業	4,597万円
●拠点施設整備事業「大字あたしんち」	1,546万円	●拠点施設整備事業「大字あたしんち」(事故繰越分)	
●公共交通対策事業	9,112万円		6億2,676万円
●観光連盟補助金	7,382万円	●緊急観光対策事業	5億2,829万円
●道路補修事業	3,277万円	(うち明許繰越 20,000万円)	
●生活関連緊急整備事業	3,475万円	●生活関連緊急整備事業(繰越分)	2,804万円
●道路除雪事業費	2億8,573万円	●湯原1号トンネル補修工事(繰越分)	1,851万円
●千国若栗線改良工事	3,194万円	●湯原1号トンネル補修工事	4,809万円
●北アルプス広域消防負担金	7,139万円	●地域高校対策事業	4,572万円

一般会計から特別会計への繰出し金 総額 2億1,205万円

●国保会計軽減保険料繰出金	2,031万円	●国保会計助産費繰出金	112万円
●国保特定検診繰出金	233万円	●後期高齢者医療特別会計保険基盤安定繰出金	
●国保直営診療施設補助費繰出金	670万円		1,104万円
●後期高齢者医療特別会計繰出金	120万円	●簡易水道事業特別会計繰出金	2,388万円
●公共下水道事業会計繰出金		●農業集落排水事業繰出金	6,358万円

(公債費分) 7,120万円、(事業用) 1,066万円(1万円未満切り捨て)

一般会計基金 総額は 56億4,330万円

●財政調整基金	21億5,114万円	●スポーツ振興基金	1億2,111万円
●公共施設整備基金	3億9,760万円	●福祉基金	1億5,240万円
●ふるさと応援寄付基金	24億9,370万円	(年度末残高額が1億円以上の基金)	

前年比約4億8,432万円の減額。ふるさと応援寄付基金、公共施設整備基金等の減額による。

会計区分	歳入	歳出	歳入歳出差引残高
一般会計	60億9,003万4,761円	59億1,235万6,658円	1億7,767万8,103円
国民健康保険特別会計	3億1,988万7,697円	3億1,911万8,944円	76万8,753円
国民健康保険診療施設特別会計	8,983万2,515円	8,968万6,999円	14万5,516円
後期高齢者医療特別会計	3,859万5,280円	3,826万3,024円	33万2,256円
簡易水道事業会計	2億634万2,632円	2億4,840万401円	△4,205万7,769円
下水道事業会計	2億6,900万5,087円	3億3,008万5,137円	△6,108万50円

補正予算・報告事案等を審議

9月定例会（会期: 9月7日～17日）

◇ 専決処分等報告

件名	内容	審議結果
損害賠償の和解並びに額を定めることについての専決処分報告	除雪作業中の接触 84,000円 道路管理による破損 13,668円	(報告のみ)
出資法人の経営状況報告((株)おたりアセット)	当期純損失 699,576円	(報告のみ)

◇ 村長提出議案

件名	内容	審議結果
小谷村過疎地域持続的発展計画の策定について	令和3年から令和7年度	可決 (全員賛成)
過疎地域に係る税の特例に関する条例の一部を改正する条例	法律の施行に伴い、特例適用の範囲等の規定を改正	可決 (全員賛成)
小谷村工場誘致条例の一部を改正する条例	法律の施行に伴い、引用する法律名を改正	可決 (全員賛成)
小谷村手数料徴収条例の一部を改正する条例	法律の改正に伴い、個人番号カード再交付手数料の徴収規定を改正	可決 (全員賛成)
小谷村国民健康保険条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例	新型コロナウイルス感染症に係る傷病手当金の規定について、期間を延長	可決 (全員賛成)
令和3年度小谷村一般会計補正予算（第2号）	1億2,500万円追加 総額43億3,100万円	可決 反対：深澤
令和3年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	130万円追加 総額3億3,280万円	可決 (全員賛成)
令和3年度小谷村簡易水道事業会計補正予算（第2号）	収益的収入及び支出 500万円追加 同収入総額 1億8,127万円 同支出総額 1億8,127万円 資本的収入及び支出 850万円追加 同収入総額 8,398万円 同支出総額 1億1,527万円	可決 (全員賛成)
令和2年度小谷村一般会計歳入歳出決算の認定について	※詳細2、3頁 決算特別委員会で審議	認定 (全員賛成)
令和2年度小谷村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	※詳細2、3頁 決算特別委員会で審議	認定 (全員賛成)
令和2年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計歳入歳出決算の認定について	※詳細2、3頁 決算特別委員会で審議	認定 (全員賛成)
令和2年度小谷村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	※詳細2、3頁 決算特別委員会で審議	認定 (全員賛成)
令和2年度小谷村簡易水道事業会計歳入歳出決算の認定について	※詳細2、3頁 決算特別委員会で審議	認定 (全員賛成)

令和2年度小谷村下水道事業会計歳入歳出決算の認定について	※詳細2、3頁 決算特別委員会で審議	認定 (全員賛成)
------------------------------	--------------------	--------------

◇ 請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
総務委員会	「辺野古新基地建設の中止と、普天間基地の沖縄県外・国外移転について国民的議論を行い、憲法に基づき公正かつ民主的に解決するべきとする意見書の採択を求める陳情」の提出について	「新しい提案」委員会 責任者 安里 長従 全国青年司法書士協議会 会長 阿部 健太郎	継続審議 (全員賛成)
総務委員会	貴会における下記事項の議員提案の要請	沖縄戦遺骨収集ボランティア 「ガマフヤー」 代表 具志堅 隆松	採 択 (全員賛成)
総務委員会	コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書の提出について（依頼）	長野県町村議会議長会 会長 渡邊 光	採 択 反対：曾根原
経済委員会	「村道柵池若栗線改良工事」の潰れ地補償費用に関する陳情書	佐々木 秀隆 外47名	不採択 反対：曾根原・宮澤
総務委員会	柵池社会体育館管理運営費に対する資金拠出について	柵池地区会 会長 栗田 明彦 柵池社会体育館管理運営委員会 委員長 平田 伸也 川内松沢耕地会 総代長 深澤 敏雄	採 択 (全員賛成)

◇ 議員発議

件名	審議結果
決算特別委員会の設置について	可 決 (全員賛成)
沖縄本島南部地域からの埋め立て用土砂採取計画の断念を求める意見書（案）について	可 決 (全員賛成)
コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書（案）について	可 決 反対：曾根原

◇ 追加議案

件名	内 容	審議結果
令和3年度小谷村一般会計補正予算（第3号）	3,300万円追加 総額43億6,400万円	可 決 (全員賛成)
損害賠償の和解並びに額を定めることについて	社会福祉協議会交通事故 1,311,769円	可 決 (全員賛成)
人権擁護委員の候補者の推薦について	藤原 万里子（南雨中）	同 意 (全員賛成)
小谷村固定資産評価審査委員会委員の選任について	高橋 正宏（伊折）、小林 寿喜（深原）	同 意 (全員賛成)

※賛成・反対は審議結果に対して ※金額は1万円未満切り捨て表示

委員会活動報告

総務・経済委員会

最近コロナ禍は収束傾向にあるが予断は許さない状況下であり、議会の公式参加などは、議会内で調整し、視察も含め総務委員会・経済委員会の代表者が対応することにしております。

国への要望活動

本年度はコロナ禍を考慮し、直接の国会要望活動は止めて、務台俊介衆議院議員を表敬訪問し、コロナ禍・昨今の自然災害の激甚化等の対応を国に要請していただくようお願いしました。

○砂防関係事業の促進。

○「防災・減災・国土強靱化のための5カ年加速化対策」の継続。

○姫川水系の整備と管理。

○スキー場関連・観光地域の観光振興。

以上の他、松糸連絡道路の早期建設など9項目につ

いて要望しました。

国土交通省北陸地方整備局

松本砂防事務所表敬訪問

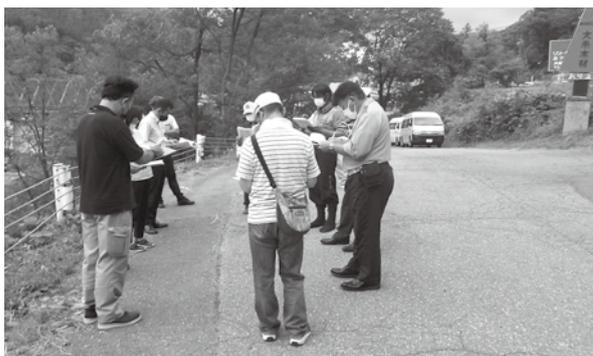
平素から姫川流域砂防関連事業にご尽力いただいている松本砂防事務所の渡辺剛副所長を訪ね、お礼を申し上げ、今後も姫川流域の砂防関連事業の推進を図っていただくことをお願いしました。



通学路安全点検

小谷小・中学校の保護者

の皆さんより要望・ご指摘をいただいた村内通学路の12箇所危険箇所及びカーブミラーや停止線等の設置に係わる確認を、小・中学校長、大町建設事務所維持管理課、大町警察交通課・交通規制係など総勢14名で行いました。



確認した結果は、子どもの安全の確保を優先し、先ずは直ぐに対応できることから、着手するよう予算付けしていただくように国、県、村に要望することを総務委員会でご検討してまいります。

議会改革特別委員会

今後の課題として

開かれた議会

- ・村民との懇談会の実施
- ・You Tubeなどでのライブ配信の検討
- ・議会だよりの充実
- ・議員の後継者問題
- ・休日、夜間議会の検討と実施
- ・議員の定数問題、議員報酬問題
- ・地区推薦などへの考え方
- ・処遇、魅力、環境等
- ・議員の資質向上

- ・長野県町村議長会より講師等を招き勉強会の開催
- ・他自治体議会議員などとの意見交換や情報共有
- ・小谷村議会会議条例などの読み返しや再検討

以上、大きく3項目を12月定例会には報告できるよう検討を進めていきます。

コロナ対策特別委員会

感染力が強いデルタ株が主流になると、子どもへの

感染、家庭内感染の対策が求められています。

今定例会の最終日に村へ申入書を提出しました。

(申入書)

コロナ感染が5波を迎えている中、議会では村民の安全を確保しつつ生活の下支えを行うことが必要と考えています。冬季シーズンへと向かっていく中、特に高齢世帯や子育て世代など、広く全村的に更なる支援が必要と判断し、対策を強く要望する。

記

1. 商品券事業等、全村民対象の支援策を実施されたい。
2. 村民の新型コロナウィルス感染症ワクチン接種率の向上を計られたい。



村政を問う

令和3年9月定例会一般質問

質問通告書 締切 8月31日

8月末時点、県内全域の新型コロナウイルス感染症警戒レベル5（特別警報Ⅱ）のため、6月定例会に引き続き今定例会も、時間一人40分、議場もマスコミを除き傍聴者なしとしました。

〈質問項目〉【順番は質問通告書提出順で、質問議員各自でページ作成をしています。】

13日(水) 午前10時～11時55分・午後1時～3時35分

- | | | |
|------------|--------------------------------|------------|
| 1、吉澤 学 議員 | ①新型コロナウイルス感染症対策について | (8ページ) |
| | ②観光について | ③山菜加工場について |
| 2、猪股 充拡 議員 | ①コロナ緊急事態宣言及び豪雨災害時における観光地小谷村の弱点 | (9ページ) |
| 3、吉岡 久人 議員 | ①役場職員数と仕事量 | (10ページ) |
| 4、宮澤 正廣 議員 | ①J R大糸線への今後の対策は | (11ページ) |
| | ②マイマイガの対応策は | |
| 5、深澤 英喜 議員 | ①複合拠点施設について | (12ページ) |
| 6、藤原 賢司 議員 | ①コロナ禍以降の経済と観光振興策について | (13ページ) |
| | ②決算議会納得した予算と事業について | |
| 7、太田 武彦 議員 | ①新型コロナウイルス感染症拡大対策について | (14ページ) |
| 8、曾根原恵子 議員 | ①複合拠点施設「新たな支え合い」をどうつくるか | (15ページ) |

「検討する」の回答はどうなったか?

【質問に「検討する」とした回答は、1年間検討後に村長より再回答されます。】(抜粋)

〈質問(令和2年9月)〉

- ◆ 移住・定住担当者は空き家専属担当に。地域おこし協力隊員を使うことは……
- ◆ 空き家は不完全になる前に未然に防ぐ対策はあるか……
- ◆ 約10年家を借りて村で改修修繕し、家賃収入で補填は…
- ◆ 新型コロナウイルスの車の用意は……
- ◆ 山菜加工場の状況は……

〈再 回 答〉

- ◆ 本年4月より観光地域振興課を新設し、集落支援係を設置。昨年まで複数の課や係の空き家関連業務を集落支援係に一本化した。また、移住定住専門のフルタイム会計年度任用職員を採用し、担当職員と共に現地確認から実施。
- ◆ 観光地域振興課集落支援係の担当職員の見線で、利用できる価値有無や撤去補助金の該当の有無など、見線を統一して判断し、担当課で最終的に対応を判断。
- ◆ 昨年9月以降検討し、本年4月から移住定住促進住宅を柵池地区で1棟指定し、既に改修修繕完了して7月から村で貸し付ける事業を実施。
- ◆ 白馬・小谷村の観光団体が中心の「白馬・小谷新型コロナ受診支援対策協議の会」を設置し、県の地域発元気づくり支援金を活用して、観光客の受診体制を支援するサービスを提供。
- ◆ 施設の老朽化やHACCP対応など、課題が多い。JA大北からは、塩蔵施設として今の施設を活用し、製品加工や梱包などは外注での案が示されている。現在の味を継続した外注生産に課題あり。今後の運営は現在方向性が出ていない。引き続きあり方は議論していく。

コロナ感染対策について



吉澤 学 議員

問 インドデルタ株の猛威が続いているが、次の点について質問する。

① 村内観光が壊滅的打撃を受けているが、これから秋・冬シーズンへの対策は。

答 村長 お盆にも豪雨による交通機関のストップなど予約客のキャンセルが続出し、通常の1割に満たない集客状況であったと報告を受けている。正月に並ぶ旅行シーズンが伸び悩んだことは、観光客を相手にする事業者にとって死活の問題であると捉えている。このような状況の中、秋の紅葉シーズンに向けて宣伝等を打ち出すことにもやはり「状況を見なが

接種率は75%となる見込み。

問 ③ ワクチン未接種、未就学児保育園児

ら」という判断になりかねない。国や県の動向を見極めるとともに、観光連盟でも宣伝や広告を打つタイミングを模索している。現状としては、感染状況、終息状況、首都圏を中心とする人流を考慮して、出来る範囲での対策をとりながら誘客を図っている。

長野市へ通ずる国道19号の通行規制についても、早期復興に向けて近隣市町村と協力する中において強く要望している。

問 ② 村民のワクチン接種率は何か。

答 村長 8月末現在、65歳以上の接種率は、1回目85・85%、2回目83・18%となった。9月中にひとまず完了となる予定の接種が順調に進んだ場合の64歳以下の2回目接種率が67%程度になるものと思われる、村全体での2回目

接種率は75%となる見込み。

答 村長 観光地域づくりプラットフォーム

では、村民参加型の事業策定の中、村民が当事者となった新しいアイデアや商品、観光資源などが生み出されてくることを目的としている。1年目となる今年度は、分科会委員を中心として各取り組みを紹介し、委員同士が繋がって新しい取り組みを作り出すモデル事業づくりを行っている。令和3年7月5日に地域経営プラチナ研究所、平尾氏が会長とする第2回理事会が開催された。何か形を作るといふ組織ではなく、村民が活動しやすい流れ、仕組みを作るといふ方向性であることを確認した。今後については、ホームページを立ち上げ、取組事例や小谷村の資源を紹介する事で、より住民が繋がりやすくなるよう情報提供を行う。

答 教育長 教職員の接種状況は、95・5%まで2回目接種済み。スクールバス運転手は75%が2回目接種済み。発生した場合の対応策については、保健所の指導と対応ガイドラインを参考に学級閉鎖や休校・休園も想定する中で校長と連絡を密に取りながら適切な対応がとれるように努めている。

問 小谷村観光地域づくりについて

小谷村観光地域づくりを3ブロックに分けて(里山・雪国・観光)審議していると思うが、プラットフォームづくりと併せて進捗状況は。

小谷村観光地域づくりを3ブロックに分けて(里山・雪国・観光)審議していると思うが、プラットフォームづくりと併せて進捗状況は。

山菜加工場について

問 令和2年度9月定例会において、「JA側

との意見を踏まえ進捗状況など随時報告する」と答えてあるが、小谷漬は外注するとの報告を受けているが、製品は出来たのか。

答 村長 塩蔵のみの行程を現在の加工場で行いその他の製造を外注として委託する方法での提案を受けているが、現在小谷漬や山うど木の葉漬において外注候補者に現在と同等以上の製品が出来るのかどうかを研究している。必要なロット数が生産できるのか調査しており、JAサイドとしては現行の製品の同等以上の物を未だ作成出来ていない進捗状況とのこと。



コロナ緊急事態宣言及び豪雨災害 時における観光地小谷村の弱点



猪股 充拓 議員

問 首都圏の緊急事態宣言及び8月の豪

雨による災害で主要道路の寸断、夏の観光トップシーズンにキャンセルが相次ぎ壊滅的状况になった。観光インフラはもちろんだが交通環境が災害時においても弱点とを感じるが村の考えを伺う。

①小谷村は主要道路が国道148号一本しかなく迂回道路も整備されていない。村独自の問題ではなく近隣自治体との連携が必要と思うが現在までの松系道路の進捗状況及び新たな道路計

画はないのか伺う。

答

村長 地域高規格道路松本系魚川連絡道路については平成10年6月に計画路線指定となり該当市町村で事業が進められている。

遅れが表明された月岡地区の橋梁上部工事については早期共用開始に向け設計の修正をおこなっている。雨中バイパス区間の先線になる塩水地区については今年から計画に着手すると県から聞いている。

村道関係では、県による代行事業で宮本地区から伊折地区までの道路築造工事を令和5年まで進めており、伊折から南小谷駅間の道路改良についても代行事業の要望をし、国道148号が通行止めになった時な

どの迂回ルートとして通行できるよう東山の道路改良・拡幅をすすめている。

問

②コロナ過においても村内観光事業者は色々知恵を絞りながら集客努力をしている。しかしながら夏の観光トップシーズンに緊急事態宣言と豪雨災害のダブルパンチでほとんど成果が得られない壊滅的状况だ。観光を主産業とすたう小谷村として集客につながる環境整備を含め補助や保証・今後の観光に対する村の姿勢を伺う。



悪天候の被害を受けたアウトドア施設

答

村長 小谷村の観光で最も優れている点は「自然」であると思う。東京などと同等な観光地ではないと思うし、軽井沢を指すことが最善策とも思っていない。

小谷村を何度も訪れる方々からの評価は「手つかずの自然」ではないかと考え、いかに自然と調和した観光地や観光産業に取り組んでいくか考えている。

杵池自然園から続く高山帯の山岳観光をはじめ雨飾高原のブナ原生林などを体感できる高原観光地、塩の道など古道や農村風景とコラボした里山観光などがある。標高にも違いがあるゆえに季節や場所によって姿・形を変えうる貴重な自然をもっていることが大きなアイテムと思っているし、これからも守っていくべきものと考えている。

小谷村の大切な自然から営まれる既存の観光産業や新たな産業を生み出せるよ



う今後も事業推進していくことを目指している。

また、自然を活かした観光地をピックアップしつつ杵池高原など観光地の街並み整備なども考えなくてはならないと思う。しかし、いずれも行政だけではできない。観光地に携わる方々やそこに住んでいる方々と一体にとり組みをしていかななくては、すべて理想論となってしまう。村民や地域が一緒になって進めていく観光地域づくりであることを理解いただきたい。

JR大糸線への

今後の対策は



宮澤 正廣 議員

沿線市町村とともにJR西日本と議論や意見交換の場を持ちながら関係性を保っているところである。

問 JR西日本への要望内容は。

答 村長 南小谷駅以北の大糸線は、コロナ禍や住民の減少等から、利用者人数が激減し、糸魚川から松本へ繋がる基幹路線であり、決して無くすることができない位置づけである。

昭和40年8月から大糸線の利用促進及び全線の輸送力の増強を促進することを目的とした「大糸線利用促進輸送強化期成同盟会」があり、大町市長を会長として、毎年JR西日本への各種要望活動を行い、大糸線

シャトルバスの冬期運行、大糸線応援隊員を募集し隊員限定の事業計画・企画列車の運行、子供車掌体験、サイクルトレイン、雪月花乗り入れなど。

問 利用者の増加対策は。

答 村長 糸魚川市長が会長となり、大町市、白馬村と共に利用促進事業を進めている「大糸線活性化協議会」をメインに取り組んでいる。利用者へ誘導のイベントや活動など、観光客にいかに対応していたかを目的に事業を実施している。

令和3年度の計画は糸魚川から南小谷間の定期券購入の一部助成(50%)大糸線を利用した温泉施設を巡るスタンプリーの実施、大糸線の乗車が含まれているツアー企画、シーフード

問 10月からダイヤの一部改正で営業体制が

南小谷駅と白馬駅は昼間のみとなり窓口業務は9時10分から17時25分で夜間は無人駅となることから対応は信濃大町駅から職員が来る。はたしてきちんとした対応が出来るのか。

答 村長 企業(会社)の方針なのでとの回答。

問 存続と今後の展望は。

答 村長 コロナ禍により観光産業が衰退すること、西日本を中心に毎年豪雨災害が発生していることもあり、JR西日本の会社自体に大きな損失がでていること。このように支

社長をはじめ関係者は定期的に小谷村を訪問し、概要の説明がされた。

今後JR西日本区間の存続を危ぶむ声もあろうかと思うが小谷村を代表する者として、現在まで廃止ありき、終期ありきでの議論はしない。また、JR側からも存続の不可能な発言を直接は言われていない。

大糸線は、今後も長野県から新潟県を横断する鉄道として、住民の貴重な足として観光客受入の貴重な路線として維持していくことを要望し、利用客が増加する取り組みもしていかなければならない。

また、白馬村や大町市、糸魚川市など近隣市町村とも連携し積極的な事業展開を進める。

**マイマイガの
対応策は**

答 村長 前回平成25年から平成27年において大量発生した幼虫にウイルスが伝染し自然終息した。

富山県の黒部周辺に大量発生した。効果的なのは、壁などに付着した卵塊を削ぎ落とすことや、高圧の水で洗い流すこと。また、幼虫の場合は毛虫用の殺虫剤が有効。しかしながら個人の庭の範囲にとどまらず、空き家や森林などの広範囲に卵塊が付着した場合は、要望により機器の貸し出しは可能。薬剤散布など村づくり補助金を活用してほしい。



夜間18:00以降無人化となる

複合拠点施設

開館の遅れは



深澤 英喜 議員

が指示されており、審査により設計会社が決定した。

問 完成、開館が1年遅れた。建設場所の決定から建設経過を遅れた理由も含め伺う。また、建設費用が計画当初より大きく変わっている。経過とともに伺う。

答 村長 建設場所について、平成30年7月の54プロジェクト協議会にて、村内の複数候補地の中から、現在の位置で建設することが決定した経過がある。同年9月に、施設の設計に係るプロポーザルが開催されている。この時の提案内容は、移住施設や多目的ホール、調理場等の設置

地方創生交付金事業で建設を行うことになり、翌年平成31年3月に補助申請額総額6億円の内1/2を補助金として受け取れる内示及び交付決定と受けた。同年4月から、施設の実施設備設計並びに敷地造成を行っている。

実施設計完了後、令和2年4月に設計工事の発注準備及び6月に工事請負契約を締結した。その後工事が始まり、本年6月に敷地舗装工事も含み、施設全体の建設工事を完了させた。

工事が遅れた理由について、当初は令和2年5月の請負契約で計画していたところ、入札不調の影響などで、約2か月のロスがあり、これにより、冬期間までに行うべ

き工事が先送りになり、壁面工事などに支障があったため、遅れた経過となった。

- また、建設工事の増額は、足場工事の追加。
 - 不良土処分費の増。
 - 1階浴室ボイラーの使用変更。
 - JR近接工事回避のためクレーン仕様変更等。
- 以上増額は
約2、600万円。
建設工事総額は
約6億8、700万円。

問 一年遅れた理由は、軟弱地盤の造成工事を先行したことはないか。

答 観光地域振興課長 スタートの造成工事に。平成31年に、300万円で、土の入替等で地盤づくりした。

札でやっている。

問 複合拠点施設の入札について、1回目の入札が「不落」になった。1回目の参加業社数・2回目の業社数・2回目の落札率は。

答 観光地域振興課長 建設工事の入札参加業社数は5社。不落になったことは、私どもの見積もり金額と、業者側の見積もり金額があわなかったこと。普通ならば業社をすべて変えて再度入札する方法か、設計書に見直しをかけて同じ業社で入札するケースがある。私どもは設計書を見直して、設計書を作り直して、同じ企業体入札をした。落札率。99・9%。

非常に見積もりがしづらかった。なぜ事前説明を業社にしているのか。

答 観光地域振興課長 地方再生交付金という補助事業を入れている。建物もそうですけど「動く物」というのは補助対象外になっている。補助対象外を全部除いた設計書を作っていた。

問 変更工事。外部足場の撤去設置工事450万円、25tから70tクレーン変更1、480万円。を支出しているが、この変更工事は、契約範囲内の工事ではないか。

答 観光地域振興課長 私どもの業者が判断して危険性・安全性を伴って変更をかけて、工事費の増額を認めた。

問 不落の理由を前回説明で聞きました「浄化槽の後発注で考えていて漏れていた。厨房施設設備がすべて漏れていた。2階部分のシステムキッチン、キッチン類の取付け備品等が全て落ちていた関係で、

答 観光地域振興課長 この造成工事は、入

問 不良土処分費300万円増額は。

答 観光地域振興課長 基礎部分を掘った時の軟弱土。

コロナ禍収束後の経済 と観光振興策を問う



藤原 賢司 議員

問 コロナ禍収束後の小谷村の経済活性化に向けた経済振興策として、

社会・経済動向の変化に対応して推進していく必要がある。今後の経済振興に対する取り組みは。

答 村長 現段階では、

これといった方策はないが、都市部の動きを視野に入れ、農山村で付加価値を発揮できる事業を模索し、アンテナを張って情報収集し、現場職員の他、企業・個人など多方面からのアイデアや企画案を新しい生活に対応した経済循環施策を実施していく。

問 令和2年度の村債残高約51億円、財政調整基金約22億円だが、コロナ禍収束後の経済状況を鑑みて、村債の残高と基金残高の数値目標は。

答 村長 第6次総合計画では、令和13年度の村債残高の数値目標は約30億円、プライマリーバランスを前提に毎年の起債額を3億円程度に抑え、過疎対策事業債など有利な地方債を活用し、財政調整基金は災害などの緊急事態に対応でき運営に努めたい。

問 コロナ禍でも、扶助的歳出は増え、インフラの長寿命化、高齢化社会への対応、継続事業など、今後の財政運営で優先度の高い事業を、公約も含め5点上あげてほしい。

「明るく！楽しく！元気よく！」のキャッチフレーズ通り、元気で暮らせる小谷村実現のための事業に反映する努力をしていく。

答 村長 コロナ禍であっても、必要な事業は行ななければならない。継続事業も含めた優先度で7点ほど上げると。

① 新型コロナウイルス感染症の収束に向けた施策

② 複合拠点施設「大字あたしんち」の健全運営

③ 観光地域づくりプラットフォームからの提言による観光振興

④ 移住定住の促進、空き家の活用

⑤ 新たなエネルギー政策

⑥ 皆が笑顔で元気よく暮らせる健康長寿の村づくり

⑦ 防災減災のインフラ整備と学術的価値の創出。

以上その他、事業を行うにあたっての行動指針として、常に村民が主役であり、村民の声を聴く姿勢を常に持ち続けていきたい。

「明るく！楽しく！元気よく！」のキャッチフレーズ通り、元気で暮らせる小谷村実現のための事業に反映する努力をしていく。

問 本決算議会で納得した予算と事業を問う

答 決算議会が終わると新年度の予算編成に向けてスタートするが、令和4年度予算はコロナ禍における重要な予算になる。

そして、村長任期の総決算ともいえる予算を組むにあたって、9月定例会の決算を受け次年度予算に生かしたいと思う事業は何か。

答 村長 コロナ禍対策は、最優先で取り組み、それ以外では大型事業については、議会に対して説明のずれが無いように、しっかりとした議論の積み重ねが大切であると感じたところであり、安易な決断とならないよう策定したい。

また、観光面では、村にある文化的、学術的にも評価されるべく既存の資源について、発信力を考え事業者の皆様を支援していけるような事業展開を策定していければと考えている。

問 本定例議会上程された決算及び事業の中で、特に村長が良かったと納得した予算と事業をあげると何かあるか。

答 村長 事業遂行の意義を考えて議決いただく努力をしているので、事業に精一杯の心血を注いでおり、自らの評価考察よりは、村民の評価が相当と考えているが、あえて自己評価を言うならば、議会を始め多くの方の意見を取入れ執行した、新型コロナウイルス感染症に関わる、緊急観光対策事業は、事業者を始め、村民の皆様へ寄り添った事業だと感じている。

また、行政懇談会等で受けた、ケーブルテレビやインターネット環境整備の要望は、本年公設民営の形でスタートができたことは、村民のお役に立てたと感じているが、議会生中継等については審議中であるが、引き続き行政関係のDXについて力を入れていく。

新型コロナウイルス

感染拡大対策について



太田 武彦 議員

業を近く募集する。

問 現状を鑑み村として対策を考えなければ

ならないがどのような視点で支援策を考えているか。

答 村長 一つ目の村の

視点は、経済対策として、低迷する観光産業を動かすために、旅行等を支援して経済循環を促進する施策、二つ目は観光に従事する事業者等に対しての所得を補償する救済事業と考える。一つ目については、国や県の動向も見極めながら実施する体制。県では「安全・安心な宿」魅力向上事業として、感染対策や、施設整備などに活用できる事

る大学生等に対する支援を早期に実施してほしい。

問 感染防止策をどのよう

に考え、村民はどのように実行していくか。

答 村長 村としては、

村主催で行う行事、イベント開催の可否も含めて、人数制限、開催時期の延期等により接触機会を軽減する。各個人に求められるものは各個人の行動意識

によるものが大きいですが、幸い小谷村民の行動意識は高いと感じている。これから

も村内や圏域の状況をお知らせするとともに基本的感染拡大防止策の徹底をお伝えする。また、観光関係者

は、お客様との接触機会が多いことから、観光連盟を通じて、感染防止対策の周知徹底を図る。

要 (追加質問で強く要

望) 村民一人一人への支援、家を離れて生活す

答 村長 国、県の支援

事業も多く打ち出されており、特にかかわりあるものとして、国の月次支援金、県の山小屋維持等支援金があります。また、信州安全・安心な宿魅力的向上事業も間もなく応募受付予定。これらの施策は、事業者が申請者となることにより活用状況は把握できない状況にある。

問 村独自の支援には限

界がある。国・県への強い働きかけが必要であるが、どのような働きかけをしているか、また結果はどうか。

答 村長 昨年は、地方

創生臨時交付金が小谷村へ2億3,200万円余交付され、2億円余の緊急観光対策を実施したが、本年度は、地方創生臨時交付金が現段階で約7,000万円の交付のみ。交付金の配分方法が変わったことにより、長野県事業が増加し、

市町村独自事業ができなくなり半年経過しており、直接知事に対して意見するとともに、県に対しても、市町村への配分を各所で訴えている。しかし、配分見込みは見えない状況にある。

県においても、県全域がレベル5になるなど、休業要請にかかわる補償として県の支出が増えていることもうかがわれる。

問 村としての支援策案

がいつ提示されるか。

答 村長 村としての支

援策はコロナ禍での安全対策やアフターコロナを見据えた積極的な取り組みと、この8月の経済循環がほとんどできなかった情勢から、所得補償、救済支援事業を実施することとし、本議会中に提案する。(今定例議会、7,540万円の支援予算議決)



複合拠点施設

新たな支えあいを



曾根原恵子 議員

「大字あたしんち」どの
ような利用が可能か

問 地域で支えあう機能が低下、村民の不安

に対応するのが目的だが、「どのように利用するのかが解らない」と戸惑いの声が聞こえる。周知が不十分だ。緊急性が高い背景は。

高齢者のみ世帯、一人暮らしの方は何世帯、何人か。

答 村長 高齢者のみ世帯は414世帯、一人暮らしの方は246人だ。

問 全国にない施設として注目されているが、運営上の「強み」と「弱

み」を分析して運営戦略を明確にすべきでは。

答 村長 「誰もが最後まで自分らしく住み慣れた場所で暮らし続けることができる村」が目標だ。

拠点となる場所を活用し、生きがい対策も目ざす。今後利用者からの感想や運営者に施設の長所短所を伺い、あらゆる角度で分析していく。

問 「強み」を活用して他の施設との違いをはつきり示すべきでは。

「幅広い地域福祉の提供が可能であること」は強みだ。

答 観光地域振興課長 開所1か月だが、退院後の一人暮らしや、家族の入院中の不安に対応し宿泊施設を利用いただいている。

問 「弱み」は、収益事業では無く、運営の財源が確保できないことだ。

財源を補う事業をどう取り入れるのか。

答 村長 安心居住施設の収益、健康弁当の販売が収益。今後の方向性は明確ではないが運営しながら実施する。催し事など

一時的な収入の仕組みも加味し、収益の増加を目指す。

問 広い敷地を有していることから村民の自主的取り組みや参加の可能性があるので。音楽会や農産物販売などはどうか。

「強み」は、収益事業では無く、運営の財源が確保できないことだ。



2階 安心居住（食堂）

答 観光地域振興課長 マルシェ、コンサート

問 など、村民利用を歓迎する。当初の目的、雇用創出と子育て世代支援

を軌道に乗せる考えは。

答 村長 現段階では運営者の試行錯誤状態だ。

本来の生活支援サービスに加え、住民交流と安心居住の業務で手いっぱいとしている。村としては、事業者と連携して当初目的達成を考えて行くよう進めていきたいと思っている。

問 施設への公共交通、移動手段の整備を早く。いつになるのか。

答 村長 この施設の移動手段だけでなく交通弱者対策が課題。村全体の移動手段を考慮する必要がある。12月のダイヤ改正に合わせて、土谷線・北小

谷線の小型車両を施設に入線させることを検討する。

また、デマンドタクシーの利用者のヒアリングを進めて、運行会社とも協議している。

問 デマンドで早急に対応すべきだ。村民も

運営者も移動手段整備を求めている。

答 観光地域振興課長 デマンド対応を考える。

問 民生児童委員・ケアマネージャー・包括

支援センター・社会福祉協議会との協力体制は。

答 村長 民生児童委員は地域の個々の事情に精通している立場。意見交換を進めたい。住民サービスの向上を目指して協力体制づくりに努める。

問 住民福祉課長 福祉の相談窓口は包括支援センターがメイン。「困りごとにはこんな方法があります」と支援につなげることができ

る。福祉の相談窓口は色々な切り口があつて良いと思う。



1階 多目的スペース（簡易ベッド）

わたしのひまわり

小谷村で住み続けられる仕組みができた！

細澤 哲（池の平）

私は今、宮本地区に完成した複合拠点施設「大字あたしんち」で、配食サービスの配達を主として働いています。数年前まで農協で働き、村内のお宅へ行かせていただく機会が多くありましたが、その時とは違いました。立場でご自宅に伺うと、今まで気が付かなかった村民の方の顔や生活があるのだと気付かされました。

複合拠点施設が『大字あたしんち』と名前が付き、何かあった時に自分たちが困らないもう一つの我が家

「あたしんち」ができたのだと理解しました。しかし：何故「大字」がわざわざ付くのか？担当の方から、「複合拠点施設は新しい集落のイメージ。『大字』は集落を

表している担当は行政。『あたしんち』は文字通り我が家を表している。行政が集落を維持していき、住民が我が家で住み続けられるようこの名前にした。」と話を聞き、自分は小谷に住み続けて良いのだと嬉しくなりました。交通面でも、国道のトンネルが明るくなり快適に走行できる事に安堵しています。雨中・月岡バイパス工事の1号・2号トンネル貫通式に参加させていただき、交通の便がさらに良くなることに喜びを感じながら、不便だと言われるこの村でも快適に過ごせると実感しました。

小谷村は、全ての村民が住み慣れた小谷村で暮らし続けられる仕組みを54プロジェクトで検討してくれました。『大字あたしんち』はその仕組みの一つで、今まで積み重ねて来た事がいよ

いよスタートします。私も、一人でも多くの方が家で住み続けられるようお弁当を届けていきたいと思えます。小谷村は2035年に人口が約1800人になつてしまうと推移されているそうです。こんなに皆が頑張っているのだからそんな事は無い！皆で前を向いて頑張っていきましょう。

わたしのひまわり

かせた 梓田 和巳（梅池）

この夏、家族でバーベ

キューの夕方、バタバタと準備をしていたら、お腹を空かせた子供達が「まだ〜？」みたいな感じで来た。「いやいや皆で準備しようよ・・・」一日の終わりで疲れもでてきて、ひとりバタバタしている感じに感じました私は「だいたいさ・・・炭起こしもできないなんて・・・今後友達で集まった時にお肉焼けるまで待ってるとか、どうかと

思うよ（怒）」すると息子が「母ちゃんの言い方が・・・しつこいしネガティブ！」などと反撃してきた。「ごめんよ、言い方良くなかったよ。でもさ、君たちは育ちの途中で、まだまだ皆さんの経験と実績を積む必要が有るでしょ？」

思い付いた『必要だと感じた事』をどうやって伝えたいときは「積みます！」と言ってから伝えるという新ルールが出来た。

「今から君の経験と実績を積みます・積んでもらいます」のようなニュアンスで言うのだけど、自分の事を思って言うてくれているみたいで聞く気になるようです。あれから何度か伝えただけど、先日「母ちゃん、それ積み済み！」って言われちゃいました（笑）これからも安心して世の中に送り出すまで日々あらゆる場面で『対話』です。

編集後記

今夏は雨が多かった。8月11日と12日に蕎麦を播種したが、降雨で中断。その後も降り続き、天気予報と空を見上げるばかりの日が続く。蕎麦は種を播いてから芽が出て、ある程度成長するまでが大切。水が最大の敵。降雨で種が腐ってしまう。朝露だけで出芽する。やっと、再開したのは20日。この日しかなく次の日から傘マーク。長雨で水分の多い土のため、播種機を付けたトラクターが少しの勾配も登れず、前進、後進を何回かトライしてもダメ。最後にロータリーを下して回してその推進力でようやく登ることができた。

この長雨で奉納地区で土石流が発生した。お盆に岡谷市では母子3人が犠牲のニュースが流れた。他人事ではない。合掌。

（吉岡 久人 記）